

2017年7月19日

株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ

ブライダル総研 夫婦関係調査2017

- ✓ 既婚者の約7割は夫婦関係に満足。一方で、30代妻の満足している割合は大幅に減少。特に、小学生以下の子どもがいる妻といない妻では満足者の減少幅に違い
- ✓ 小学生以下の子どもがいる妻は家事負担比率の理想と現実のギャップが大きく、「夫婦間のバランス」「時間的ゆとり」「精神的ゆとり」が減少。一方で、20代・30代の夫の「家事負担をする」意識は高まりつつある

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋）が運営するリクルートブライダル総研では、夫婦関係の状況について詳細を把握するために、「夫婦関係調査2017」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<夫婦の満足状況>P3

夫婦関係に満足している割合は67.2%で、2015年調査から1.9ポイント減少。特に30代妻が大幅に減少

- 20代～60代の既婚者において、夫婦関係に満足している割合は67.2%で、2015年調査（69.2%）より1.9ポイント減少。
- 妻は60代以外の年代が減少し、特に30代妻は13.9ポイント減少。

<小学生以下の子どもの有無と夫婦の満足状況>P4～7

夫婦関係の満足者割合において、小学生以下の子どもがいる妻の減少幅が最も大きい

- 夫婦関係の満足者割合をみると、小学生以下の子どもがいる夫は63.3%（2015年調査 67.6%）、小学生以下の子どもがいない夫は73.2%（同70.4%）。一方で、小学生以下の子どもがいる妻は63.0%（2015年調査 71.8%）、小学生以下の子どもがいない妻は65.4%（同67.6%）

自分が行う家事の比率において、小学生以下の子どもがいる妻は、いない妻よりも、理想と現実の家事分担比率にギャップを感じている。一方で子育てのギャップには差はない

- 夫婦の家事の分担比率をみると、小学生以下の子どもがいる妻は自分が家事全体の84.6%を負担し、いない妻は82.5%を負担していると思っている。また、家事分担比率の理想と現実のギャップは、小学生以下の子どもがいる妻は18.0ポイント（実際－理想）であり、いない妻は14.4ポイント。
- 夫婦の子育ての分担比率をみると、小学生以下の子どもがいる妻は自分が子育て全体の77.7%を負担し、いない妻は72.8%を負担していると思っている。また、子育て分担比率の理想と現実のギャップは、小学生以下の子どもがいる妻は16.4ポイント（実際－理想）であり、いない妻は16.0ポイント。

※「実際」と「理想」の比率は自分と配偶者の分担の合計を100%とした場合の自分の負担分について回答

小学生以下の子どもがいる妻において、「家庭に対する思いや意識のバランス」や「時間的ゆとり」「精神的ゆとり」が2015年調査から減少している

- 「家庭に対する思いや意識は、夫婦でバランスがとれている」割合において、小学生以下の子どもがいる夫は55.4%（2015年調査 58.6%）、いない夫は61.9%（同61.0%）。小学生以下の子どもがいる妻は57.0%（2015年調査 62.4%）、いない妻は57.2%（同55.1%）。
- 「普段の生活は、仕事や家事、学業など以外に、好きなことをしたり、休んだりする時間的ゆとりがある」割合は、小学生以下の子どもがいる夫は34.5%（2015年調査 33.1%）、いない夫は61.2%（同61.0%）、小学生以下の子どもがいる妻は32.7%（同46.0%）、いない妻は73.5%（同71.4%）。
- 「普段の生活において、精神的なゆとりがある」割合は、小学生以下の子どもがいる夫は39.8%（2015年調査 33.9%）、いない夫は50.1%（同50.5%）、小学生以下の子どもがいる妻は34.8%（同40.6%）、いない妻は56.5%（同50.2%）。

<夫婦のカタチの変化>P8

20代・30代の夫は、結婚後「家事」を負担することを前提としている割合が高く、2015年調査から増加。夫の結婚後の家事負担に対する意識は高まっている

- 結婚後の変化についての考え方において、夫が「（一般的に）家事の負担が増える」と思う割合は、20代49.6%（2017年調査-2015年調査 6.0pt）、30代 47.1%（同11.3pt）、40代 37.4%（同3.9pt）、50代 35.4%（同0.3pt）、60代 37.2%（同2.9pt）。妻が「（一般的に）家事の負担が増える」と思う割合は、20代 64.5%（2017年調査-2015年調査 -1.1pt）、30代 67.6%（同-5.7pt）、40代 74.0%（同1.6pt）、50代 67.1%（同3.1pt）、60代 73.1%（同1.3pt）。

- ◆ 出版・印刷物ヘデータを転載する際には、「夫婦関係調査2017(リクルートブライダル総研 調べ)」と明記いただけますようお願い申し上げます。
- ◆ 「夫婦関係調査2017」の詳細は、弊社『ブライダル総研』サイト(<http://bridal-souken.net/>)より、ダウンロードいただけます。リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2017年3月28日（火）～3月29日（水）

【調査対象】 全国の「既婚者かつ本人初婚」および「離婚経験のある独身者（結婚経験1回）」の20代～60代の男女

【回収サンプル数】 既婚者：2,000件、離婚経験者：915件の合計2,915件

※本調査では、性・年代別に定数にてサンプルを回収し、集計の際に実際の性・年代別未婚者・既婚者の人口構成に合わせるために、サンプルに重みづけを行った（ウェイトバック集計）

◆回収サンプル構成

			20代	30代	40代	50代	60代	合計
東名阪	既婚者	男性	100	100	100	100	100	1000
		女性	100	100	100	100	100	
	離婚経験者	男性	5	50	50	50	50	455
		女性	50	50	50	50	50	
東名阪以外	既婚者	男性	100	100	100	100	100	1000
		女性	100	100	100	100	100	
	離婚経験者	男性	10	50	50	50	50	460
		女性	50	50	50	50	50	

※「東名阪」とは、首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）、東海（愛知・岐阜・三重）、関西（大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山）を示します。



性・年代別既婚者・離婚者の人口構成（平成27年国勢調査による）に合わせてウェイトバック集計を実施

◆ウェイトバック補正後サンプル構成

			20代	30代	40代	50代	60代	合計
東名阪	既婚者	男性	27	129	187	158	184	1426
		女性	38	150	202	164	187	
	離婚経験者	男性	1	5	12	14	15	123
		女性	2	10	22	21	21	
東名阪以外	既婚者	男性	25	104	139	141	186	1236
		女性	34	119	151	153	184	
	離婚経験者	男性	1	6	12	14	16	129
		女性	3	12	22	21	22	

※ウェイトバックによる補正を行っているため、補正後サンプル数に小数点が発生していますが、四捨五入して整数表記をしています。そのため、サンプル数の合計と誤差が生じる場合がございますが、ご了承ください。

◆人口構成比算出元データ

平成27年国勢調査人口等基本集計より <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.htm>

※本文中で使用している時系列のデータは、過去に実施した同調査のデータです。調査概要は以下の通りです。

<「夫婦関係調査2015」>

【調査期間】 2015年3月27日（金）～3月31日（火）

【調査対象】 全国の「既婚者かつ本人初婚」および「離婚経験のある独身者（結婚経験1回）」の20代～60代の男女

【集計サンプル数】 既婚者：2,000件、離婚経験者：938件の合計2,938件

※本調査では、性・年代別に定数にてサンプルを回収し、集計の際に実際の性・年代別未婚者・既婚者の人口構成に合わせるために、サンプルに重みづけを行っています（ウェイトバック集計）。

※ウェイトバック集計は、平成22年国勢調査人口等基本集計を元に算出しています。

※小数点第二位以下は四捨五入しているため、構成比が100%にならない場合があります。また、2017年調査と2015年調査との差は、小数点第二位以下を含めた数値で算出しているため、数値にずれが生じる場合があります。

夫婦関係の満足状況(経年比較)

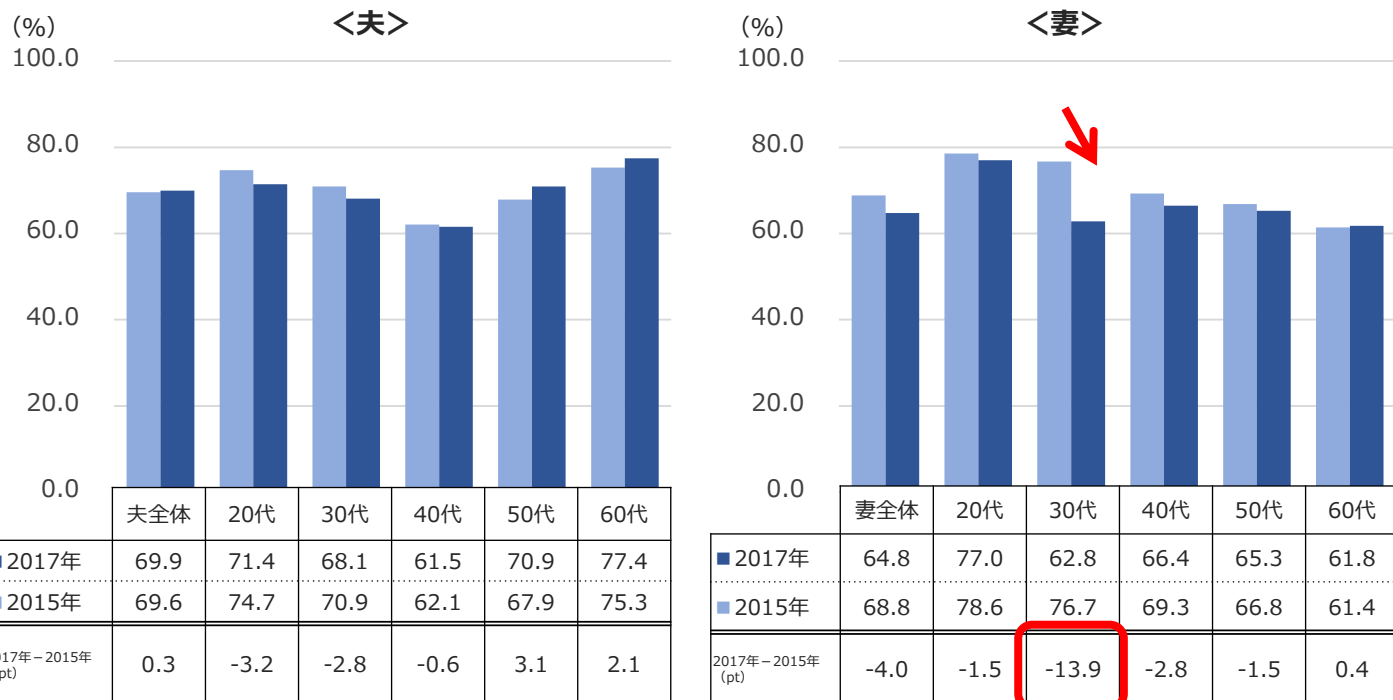
夫婦関係に満足している割合は67.2%で、2015年調査から1.9ポイント減少。特に30代妻の減少が著しい

- 既婚者全体において、「夫婦関係に満足している」割合は67.2%で、2015年調査（69.2%）より1.9ポイント減少した。
- 妻は60代以外の年代で減少。特に30代妻は13.9ポイント減少した。

■ 夫婦関係の満足状況（既婚者年代別／単一回答／「非常にそう思う」「ややそう思う」計）



■ 夫婦関係の満足状況（夫・妻年代別／単一回答／「非常にそう思う」「ややそう思う」計）

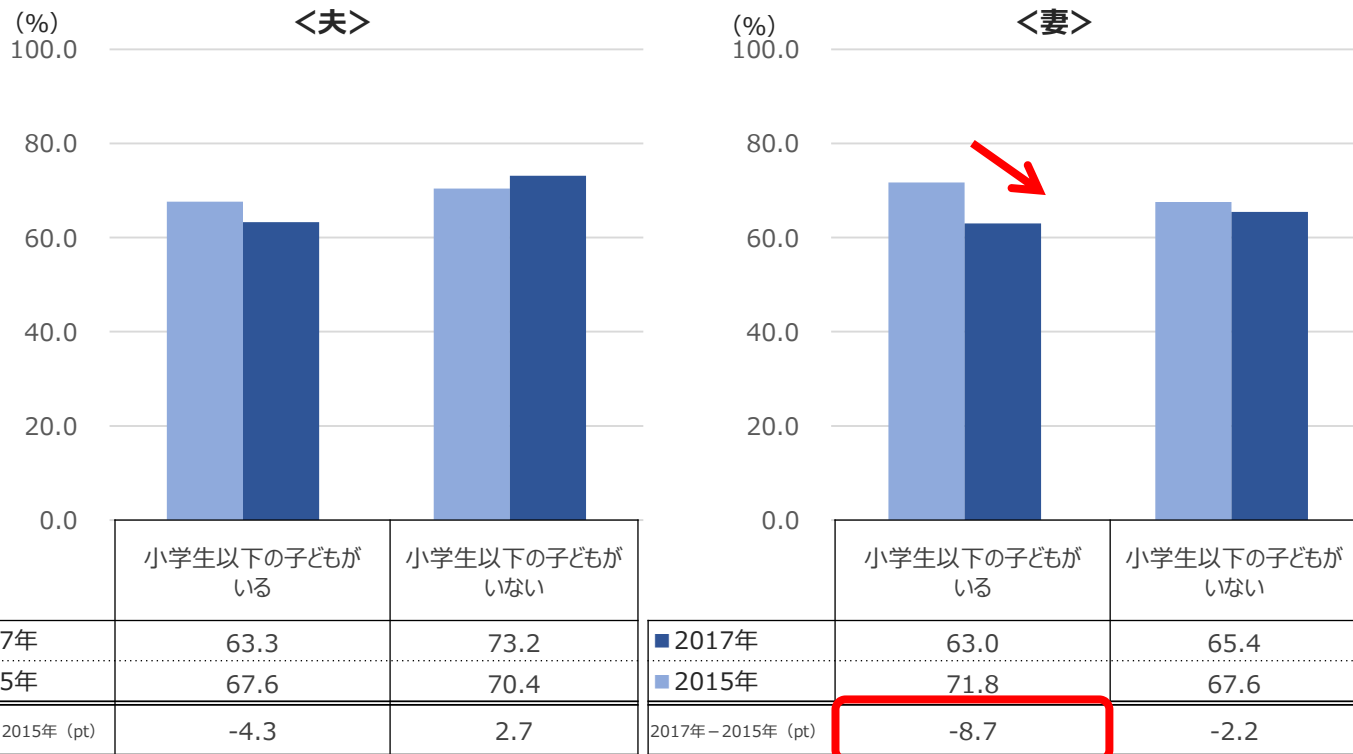


※小数点第二位以下は四捨五入しているため、構成比が100%にならない場合があります。
また、2017年調査と2015年調査との差は、小数点第二位以下を含めた数値で算出しているため、数値にずれが生じる場合があります。

夫婦関係の満足者割合において、小学生以下の子どもがいる妻の減少幅が最も大きい

- 夫婦関係の満足者割合をみると、小学生以下の子どもがいる夫は63.3%（2015年調査 67.6%）、小学生以下の子どもがいない夫は73.2%（同70.4%）。一方で、小学生以下の子どもがいる妻は63.0%（2015年調査 71.8%）、小学生以下の子どもがいない妻は65.4%（同67.6%）。

■夫婦関係の満足状況（夫・妻、小学生以下の子どもの有無別／単一回答／「非常にそう思う」「ややそう思う」計）



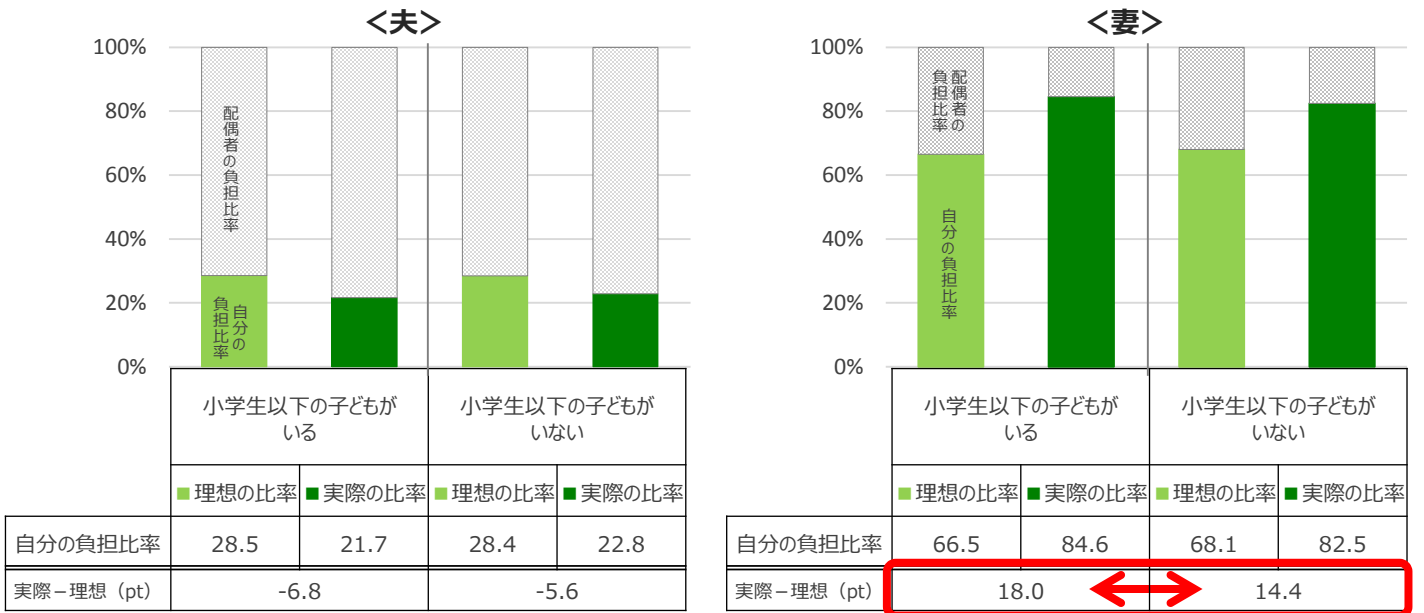
自分が行う家事の比率において、小学生以下の子どもがいる妻は、いない妻よりも、理想と現実の家事分担比率にギャップを感じている。一方で子育てのギャップには差はない

- 夫婦の家事の分担比率をみると、小学生以下の子どもがいる妻は自分が家事全体の84.6%を負担し、いない妻は82.5%を負担していると思っている。また、家事分担比率の理想と現実のギャップは、小学生以下の子どもがいる妻は18.0ポイント(実際-理想)であり、いない妻は14.4ポイント。
- 夫婦の子育ての分担比率をみると、小学生以下の子どもがいる妻は自分が子育て全体の77.7%を負担し、いない妻は72.8%を負担していると思っている。また、子育て分担比率の理想と現実のギャップは、小学生以下の子どもがいる妻は16.4ポイント(実際-理想)であり、いない妻は16.0ポイント。

※「実際」と「理想」の比率は自分と配偶者の分担の合計を100%とした場合の自分の負担分について回答

■ 夫婦の家事分担比率の理想と現実 (夫・妻、小学生以下の子どもの有無別/実際と理想それぞれ単一回答)

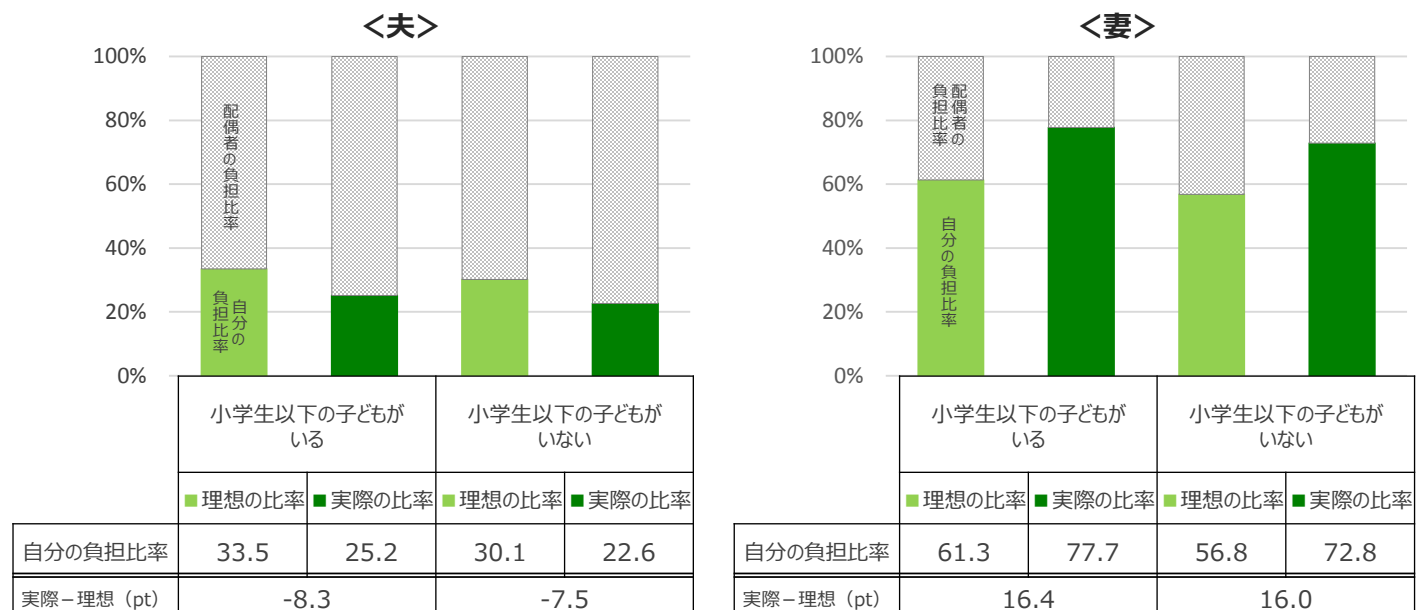
【家事の分担比率】 ※「実際」と「理想」の比率は自分と配偶者の分担の合計を100%とした場合の自分の負担分について回答



※調査票上は割合で聴取しているが、百分率に変換し表示している

■ 夫婦の子育て分担比率の理想と現実 (夫・妻、小学生以下の子どもの有無別/実際と理想それぞれ単一回答)

【子育ての分担比率】 ※「実際」と「理想」の比率は自分と配偶者の分担の合計を100%とした場合の自分の負担分について回答



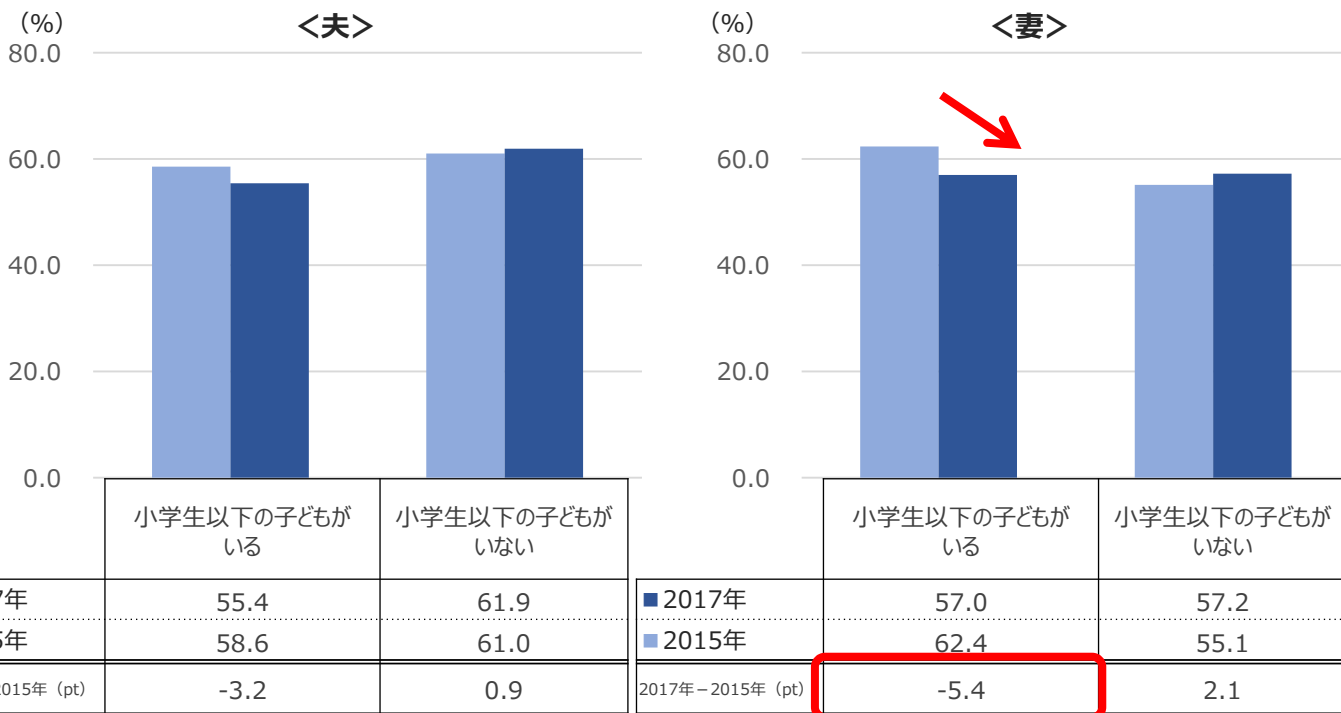
※調査票上は割合で聴取しているが、百分率に変換し表示している

小学生以下の子どもがいる妻において、家庭に対する思いや意識は、夫婦でバランスがとれていると思う割合が2015年調査から減少している

- 「家庭に対する思いや意識は、夫婦でバランスがとれている」割合において、小学生以下の子どもがいる夫は55.4% (2015年調査 58.6%)、いない夫は61.9% (同61.0%)。小学生以下の子どもがいる妻は57.0% (2015年調査 62.4%)、いない妻は57.2% (同55.1%)。

■夫婦関係に対する考え方(夫・妻、小学生以下の子どもの有無別/単一回答/「非常にそう思う」「ややそう思う」計)

「家庭に対する思いや意識は、夫婦でバランスがとれている」

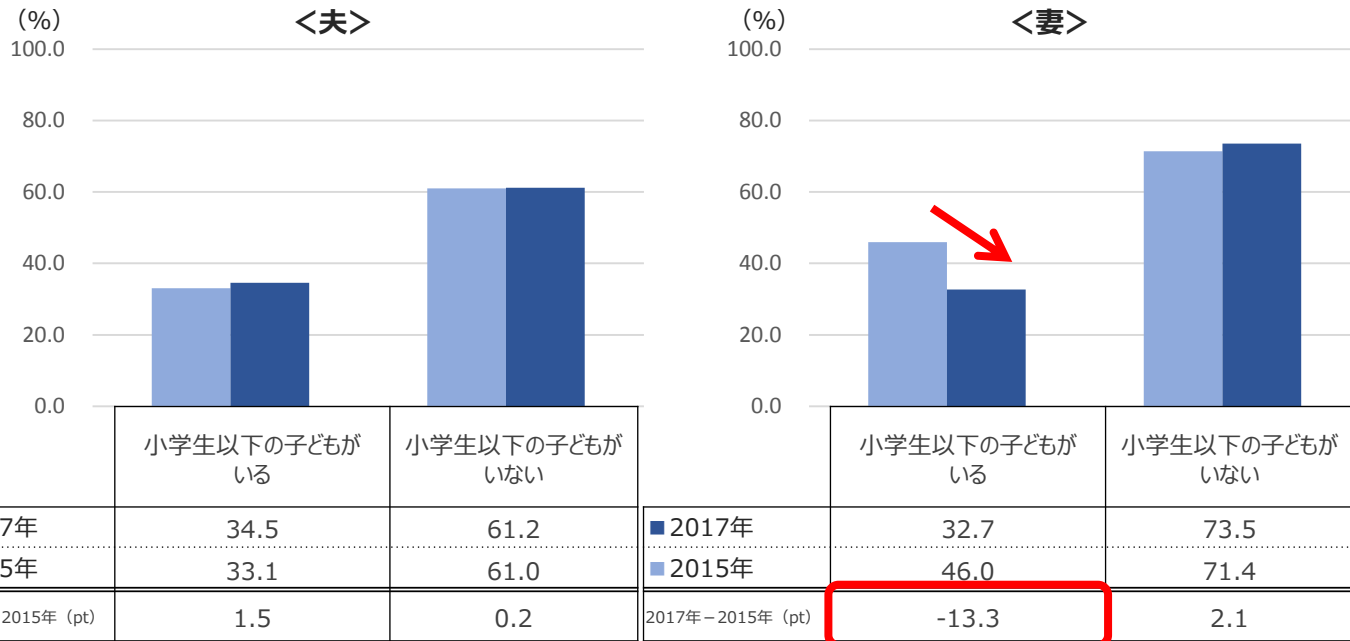


小学生以下の子どもがいる妻は「時間的ゆとり」「精神的ゆとり」が2015年調査から減少している

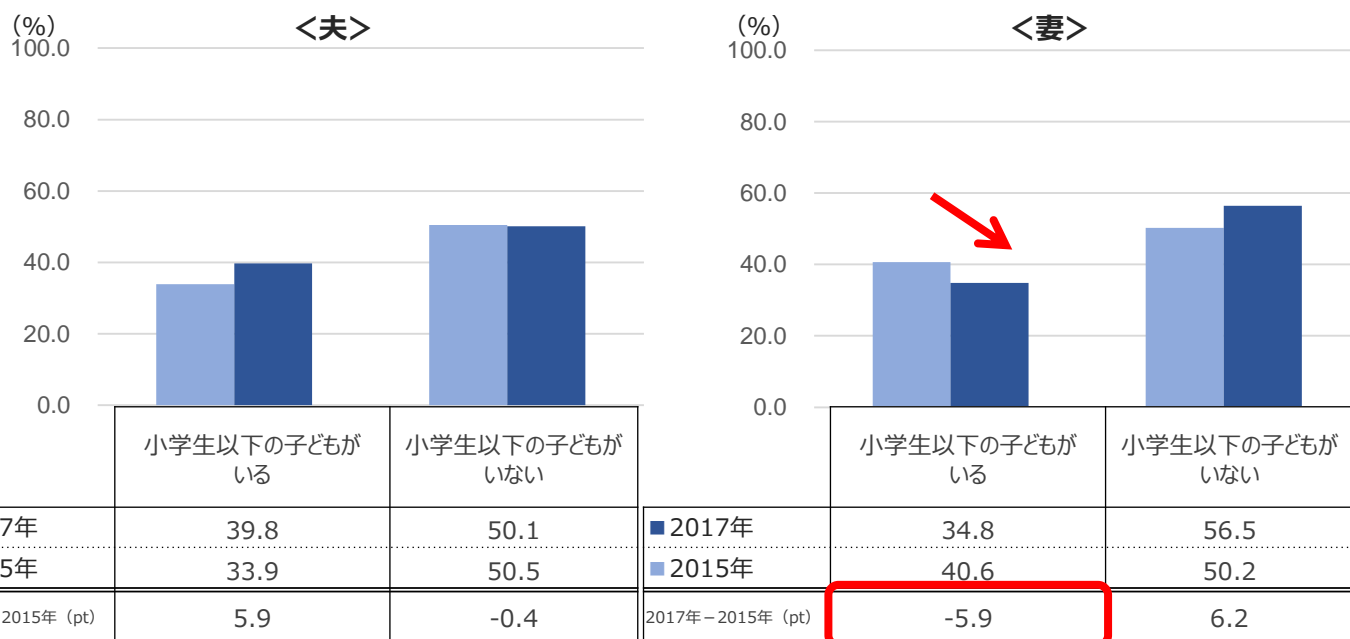
- ▶ 「普段の生活は、仕事や家事、学業など以外に、好きなことをしたり、休んだりする時間的ゆとりがある」割合は、小学生以下の子どもがいる夫は34.5%（2015年調査 33.1%）、いない夫は61.2%（同61.0%）、小学生以下の子どもがいる妻は 32.7%（同46.0%）、いない妻は73.5%（同71.4%）。
- ▶ 「普段の生活において、精神的なゆとりがある」割合は、小学生以下の子どもがいる夫は39.8%（2015年調査 33.9%）、いない夫は50.1%（同50.5%）、小学生以下の子どもがいる妻は 34.8%（同40.6%）、いない妻は 56.5%（同50.2%）。

■現在の生活における状況（夫・妻、小学生以下の子どもの有無別／単一回答／「非常にそう思う」「ややそう思う」計）

「普段の生活は、仕事や家事、学業など以外に、好きなことをしたり、休んだりする時間的ゆとりがある」



「普段の生活において、精神的なゆとりがある」

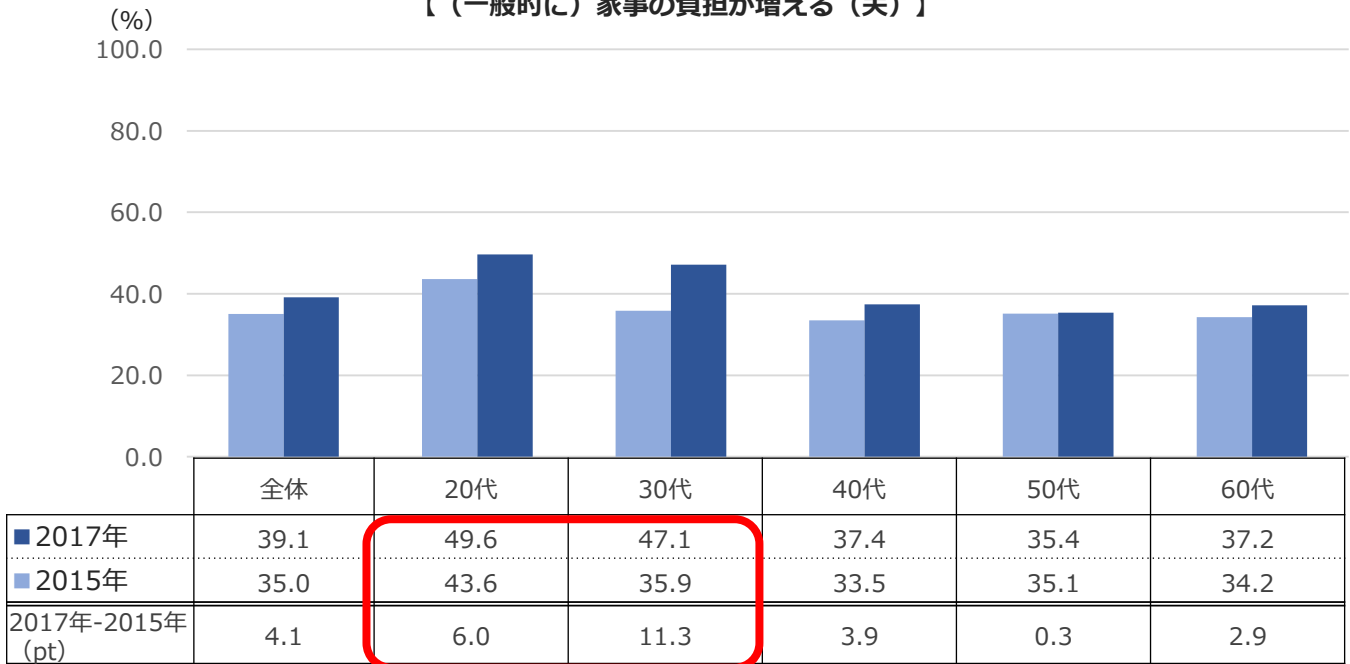


20代・30代の夫は、結婚後「家事」を負担することを前提としている割合が高く、2015年調査から増加。夫の結婚後の家事負担に対する意識は高まっている

➤ 結婚後の変化についての考え方において、夫が「(一般的に)家事の負担が増える」と思う割合は、20代49.6% (2017年調査-2015年調査 6.0pt)、30代 47.1% (同11.3pt)、40代 37.4% (同3.9pt)、50代 35.4% (同0.3pt)、60代 37.2% (同2.9pt)。妻が「(一般的に)家事の負担が増える」と思う割合は、20代 64.5% (2017年調査-2015年調査 -1.1pt)、30代 67.6% (同-5.7pt)、40代 74.0% (同1.6pt)、50代 67.1% (同3.1pt)、60代 73.1% (同1.3pt)。

■ 「結婚後の変化についての考え方 (既婚者性年代別/単一回答/「非常にあてはまる」「ややあてはまる」計)

【(一般的に)家事の負担が増える(夫)】



【(一般的に)家事の負担が増える(妻)】

